



有田2000 ロータリークラブ



No. 1005
Club Bulletin

会長 芝 毅
幹事 森 誠
クラブ会報委員長 永石 睦巳

青少年奉仕月間

四つのテスト 言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム

令和5年5月31日（水）第1006回
ソング「それでこそロータリー」
会長の時間 幹事報告 委員会報告
ニコニコ箱報告 出席報告
次年度会長のための時間

次回のプログラム

6月3日4日 一泊移動例会 伊勢方面
6月14日 クラブ協議会
ガバナー補佐 松村秀一様
6月21日 委員会活動報告

前回の報告

（第1005回例会）

開催日

令和5年5月24日（水）

ソング「我等の生業」

会長の時間 幹事報告 委員会報告

ニコニコ箱報告 出席報告

ゲスト

湯浅町役場 福祉課 課長 坂口理恵様

地域包括支援センター センター長 中井弓様

山本智之様



●会長の時間●

皆さん 今晩は！メンバーの出席ありがとうございます。本日の例会は、湯浅町役場 福祉課 湯浅地域包括支援センターのお話です。どうかよろしくお願ひします。

今日の勉強のため湯浅地域包括支援センターをネットで調べましたところ高齢者の生活のご相談をされていると、わかりました。

私も今年65歳になります。色々考える年齢です。と、いうことで65歳を調べました。

定年後の人生を楽しむための秘訣は何か。医師の和田秀樹さんは「『定年を迎えた』ということは、仕事に対する最大最強の『かくあるべし思考』から完全に解放されることだ。何ごととも遊び半分と、胸を張って無責任のまま生きればよい」という。

現役を過ぎたら、「好きなことだけをする」という選択もあります。「遊んで暮らす」のが、人生の理想だと私は思っています。ですから、やりたくない仕事や役割はムリして続けるのは、時間ももったいないと思います。そしてこれがいちばん大事なことです。高齢になればなるほど、「いろいろなものから自由になる、解放される」といった気持ちを大切にしたい方がいいのです。心を伸びやかにして、残された人生を楽しむためにも、どういふものであれ自分を縛るようなことはしない方がいいのです。まず捨てたいのは「かくあるべし思考」全くその通りだと私も



思います。どれだけ生きるのかわかりませんが、楽しく老後を経験しようと思います。

●幹事報告●

幹事 森誠君

- ・2640地区より 世界米山学友による「再会in関東」のご案内(回覧)
- ・例会変更 (ホワイトボード)



●ニコニコ箱●

- 芝毅君：湯浅町地域包括支援センターの皆様 本日はありがとうございます。
- 中屋喜臣君：皆様お疲れ様です。支援センターの皆様本日の卓話宜しくお願い致します。
- 森誠君：皆様こんばんは！昨日はゴルフだったんですが林の中に打ち込んでしまい1ホールリタイアしました。ゴルフの経験者の皆様よきアドバイスお願いします。本日は地域包括支援センター皆様宜しくお願い致します。
- 梅本茂喜君：湯浅町地域包括支援センター様本日宜しくお願い致します。
- 大浦輝彦君：皆さんこんばんは。湯浅町役場地域包括支援センターの皆様本日の卓話宜しくお願い致します。
- 平松一彦君：湯浅町地域包括支援センターの皆様本日の卓話宜しくお願い致します。
- 寺村公博君：湯浅町役場の皆様 本日は宜しくお願い致します。有難うございます。
- 南良暢君：本日 湯浅町地域包括支援センター様お越し頂き有難うございます。

●出席報告●

前任君

	会員数	出席者数	出席率
本日の出席	14名	11名	78.5%
今年度平均		12.4名	87.8%

●卓話●

湯浅町役場 地域包括支援センター 山本智之様

2013年の発表資料では全国で認知症高齢者が462万人、軽度認知障害(MCI)400万人と推計され、予想よりはるかに急速なペースで認知症高齢者が増加しています。



現在の日本の高齢化率は約29%、有田1市3町の高齢化率は約32~36%です。私たちの周りではさらに認知症の方の数が膨らむことは確実です。とは言え、「認知症」とは加齢に伴い発症リスクが高くなり、特別な病気ではなく誰もがかかる可能性のある病気といえます。

認知症を引き起こす病気の原因には種類がたくさんあり、一番多い病気がアルツハイマー型認知症です。

しかし、高齢者だけではなく、働き盛りで発症する若年性認知症という問題もあり、自分たち自身のこととして、認知症について考えていかなければならないと思います。

2015年に策定された新オレンジプラン(認知症施策推進総合戦略)では、関係省庁と共同で策定し、各地域の実情に応じた、認知症の啓発活動が期待され2019年には、認知症施策推進大綱が策定され認知症の人や家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進していくこととなっています。

日本は先進国の中でも高齢化が進んでおり、他の先進国は日本がどのように、「認知症対策」に取り組んで行くのかを今後も注目しています。

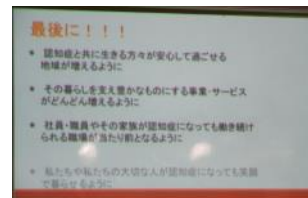
認知症は決して医療や福祉の中だけで解決する問題ではありません。

私たち1人1人の生活に直結することなので、認知症の本人や家族はもちろんのこと、地域住民、医療介護福祉関係者、企業、自治体、関係省庁、研究機関など、様々な立場の人々の協力が不可欠です。

周りの人が、認知症の人やその家族を理解し適切に対応できれば、お互いに安心して暮らすことができます。

認知症の正しい知識と理解をもって認知症の人や家族を見守り、手助けをする応援者である認知症サポーターを増やしていくこともその一つです。

認知症という言葉だけで判断しないで、目の前の本人を見つめて理解し、認知症に特化した形ではなく地域が一丸となって支え合っていくことが大切であり、一つ一つ取り組んでいくことが、そうした社会に少しでも近づくことだと信じて活動していきたいと思っています。



閉会点鐘 芝会長